

第2回瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

▽日 時 平成27年8月25日(火) 10:00~12:00まで

▽場 所 瀬戸市役所庁舎4階 大会議室

▽出席者 (順不同、敬称略)

[瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議委員]

横井暢彦、寺田聡、成田一成、丹羽誠、山中俊博、熊谷由美、中桐淳美、山田基成、水野和郎、岡崎信久、牧 治

[市]

副市長 青山一郎、参事兼経営課長 高田 佳伸、行政経営部参事 涌井康宣

▽欠席者 (順不同、敬称略)

[瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議 委員]

水野貴久枝

[市]

市長 伊藤保徳

▽議題等

- (1) 副市長挨拶
- (2) 瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議委員からのアイデア整理について
- (3) 「働く場」をテーマに、瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の立案に関する意見交換
- (4) その他

▽議事内容

事務局から、議題2「瀬戸市まち・ひと・しごと創生推進会議委員からのアイデア整理について」、資料の確認程度の説明がなされた。

議題3:「働く場」をテーマに、瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の立案に関する意見交換

〈横井座長〉

座 長: 議事に入る前に、事務局からの説明で不明な点、確認したい点等があれば発言をお願いしたい。

〈丹羽委員〉

委 員: 資料2の7ページ、今後も発展する可能性が緑の枠で囲われているが、ピンクのところ伸びる可能性があるところがまだまだあると思うが、緑で囲んだ範囲に限定するのは何か意味があるのか。

〈事務局〉

事務局: ピンクの範囲が稼いでいる産業なのに対して、緑の枠の設定は、ピンクの範囲の中で、今後、稼ぐ力を伸ばす可能性がある産業分類を示す範囲として、全国一律の基準を総務省が示したもので、あくまで参考の範囲。よって、本会議で、緑の枠内だけの産業分野を対象に議論を

進めて頂きたいというものではない。

〈横井座長〉

座長：あくまで総務省のデータが客観的にあげてきた数値。資料は、人口によって計算されているので、窯業が突出しているのは、日本の中で特殊な産業分野で、それが瀬戸に集中しているという見方もできる。

他に。資料についてのご質問は。

では、冒頭でも申し上げたとおり、本日は「働く場」という視点で、今回は「子育て」「くらし」でご意見をいただきたいと思う。

資料1をもとに、アイデアを深めていきたいと思うので、挙手で進めていきたい。

〈宮内委員〉

委員：マトリックスの構成で、どのような視点でアイデアを区分されたのか。例えば、人口課題のものなのか、仕事を創出するものであるのか、そこを分けないと議論ができない。

〈横井座長〉

座長：資料は、前回出された意見やその後の出された様々な視点の意見を全てマトリックスに落としているので、テーマを限定した整理ではない。今回の「働く場」というテーマと外れているアイデアもあるかもしれないが、そこは除く形で、委員の関心があるところを議論していきたいと思う。

〈牧委員〉

委員：この会議の命題は、瀬戸市に人を呼び込み定着させるために何をやるのか、その情報を外にどうやって発信するとか、やさしいまちをアピールするとか、創出するために何をやったらいいか、ということで、働く場だけをテーマにする必要があるのか。

〈横井座長〉

座長：会議でとりまとめる使命は、戦略を作り上げていくためのアイデアを出すことであり、今日は、その中で、皆さんの興味関心のあるところを深めていきたい。

〈寺田委員〉

委員：第1回のアイデア出しの際に、4つの項目があって、それぞれアイデアを出した。この中で、働く場がテーマなら、例えば私の提案させていただいたことだと、区分Bの企業誘致ということでもとめてある。その真意は、ただ企業を誘致するのではなく、瀬戸は地震に対しても安全な区域なので、それをメリットとして打ち出したらどうか、と私は提案させていただいた。その観点から探ってみたらいかがか。

〈丹羽委員〉

委員：資料を見て、ちょっと違和感がある。これに限定されてしまうと範囲が狭まりすぎ、少しアイデアが絞られてしまっているところもある。

〈横井座長〉

座長：なかなか難しいところだが、あれもこれもと広げると、何を対象するかがわからなくなるので、今回は「働く場」という視点の中で、ご意見をいただきたい。

〈成田委員〉

委員：議論の対象とする範囲が広すぎるのではないか。国が地方創生事業に対して補助金を出してくれる仕組みを用意しているのだから、とりあえず補助金もらうことを考え、将来的なことは別で考えようとしなければいけない。お金がなければ何もできない。企業誘致するにしても、買ってもらえる土地がないとできない。長期的なことよりも、補助金がもらえる方法を考えた方がいい。

〈横井座長〉

座長： この会議の議論は、必ずしも予算を確保するだけの議論ではないので……。

〈成田委員〉

委員： 中心市街地活性化に使えるお金が無いといったことを踏まえ、議論してほしい。

〈横井座長〉

座長： 国から補助金をもらえるのは一時的のもので、継続してもらえないものではない。瀬戸市のまちづくりとして継続していくべき事業を実施していく内事業を皆さんと議論できればいいと思う。

〈成田委員〉

委員： 難しく考えるのではなくて、続けていけること、あと2回で決められることを決めようということか。

〈横井座長〉

座長： 国からの補助金は、何もしなくていただけるものではないので、なるほどな、と政府から納得いただいて、かつ、瀬戸市の中でも市民の皆さんに納得いくアイデアとして、進めていけるご意見をいただいて議論していけたらと思う。

〈水野和郎委員〉

委員： 国では、2015年の基本方針を閣議決定している。1つ目が地方に仕事をつくり安心して働けるようにする、2つ目が地方への新しい流れをつくる、3つ目は若い世代の結婚、出産・子育ての希望を叶える、4つ目は時代に合った地域をつくり安心な暮らしを守るとともに地域連携、というタイトルが既にできている。ざっくりと答えのようなものがあるので、これを上から順番にやっていった方がよい。

〈横井座長〉

座長： おっしゃった通り、コピーしてうまくいくものはコピーすればいいと思うが、瀬戸の特色をしっかりと出していかなければいけないと思う。

〈丹羽委員〉

委員： 今回、働く場をテーマにということで、前回の終わりに市長さんから、瀬戸の魅力、伝統、窯業ということでおっしゃられた。瀬戸での働く場について考えると、いくつかの選択肢があり、瀬戸は恵まれた場所だと思う。

1つは若い人のUターンを促し、若い人の働く場が瀬戸には無くてはいけなため、企業誘致がある。アイデアでは、ソフトウェアセンターやテレアポセンター等もあるが、若者が戻って来てもらうためには、文系理系や男女に関わらず高校卒業したばかりの人でも、幅広く将来的に安定して魅力あることが望ましい。例えば、エネルギー環境、医療、航空宇宙等があれば理想であり、そういった条件が満たされると思う。市の税収面を考えると、固定資産税などからもそういう企業があってほしい。

瀬戸は、近辺に名古屋・豊田市等の魅力的な働き場があることから、ベッドタウンとしての機能を上げて、若い人がいなくなる、出ていかない場所としていけるのでは。瀬戸駅から名古屋や豊田へのアクセスを良くするとか、住環境を良くすること等が必要。

立場上自分が最も言いたいのは、瀬戸ならではの伝統産業を生かした若い人や女性を集める働き場づくり。そういうことが切り口にできるのではないか。瀬戸に毎年若い人が陶磁器やガラス工芸を志す人が学びに来ている。自分の工房を持つということを瀬戸でやりたいと思っているけれど、なかなかできない。市内の何箇所かで使われなくなった工場跡などで焼き物長屋であるとか、窯業や販売を目指している方がいる。こういう方たちへの工房やギャラリー等を市が助成して起業しやすくするといったのではないか。今はバラバラにやっていてどこがやっているのかわからないので、計画的に観光に適した場所等便利なところ、観光視点

としても駅の近くで。若い女性の感性でつくられた製品は人を集められるし、惹きつける、流行は女性がつくっていくので、そういうものを活かしていくと人が集まり、窯業だけでなく、センスのいい店等ができて、人気の観光スポットにしていけるのではないか。中部地域は内外から観光地として人が集まるところになっている。昇竜道の中に、瀬戸の招き猫ミュージアムだけでなく、他のことで窯業やガラスで、もっと観光地として人を集めて、そういう方面での働く場を考えられるのではないか。

〈横井座長〉

座長：例えばその中で、瀬戸の特徴を踏まえて、こうすれば人口が増える、働く場が増える、具体的な課題を皆さんに伺っていききたい。

〈牧委員〉

委員：私は、ハード的な整備も必要であるが、仕事柄ソフトやイメージで人を集めることを考える。瀬戸の子が、愛知県から来た、名古屋から来た瀬戸市出身を隠す。よその人に瀬戸内海の瀬戸かと言われる。知名度、自信のなさを払拭したい。地域に愛着を持つこと、自信を持つことが、地域に住みたくなる、戻ってきたくなる、ということで大事である。焼き物でよその市町に負けているかもしれないが、でも瀬戸は日本一の焼き物のまちと言える何かがあることを強調していくべき。例えば、野沢温泉村は、何もなくて将来子どもたちが全員出て行ってしまうということでスキー場をつくり、子どもたちにスキーを教え、いつのまにか金メダルを取るような選手が出た。野沢温泉村が世界一で、うれしいことであり、作戦であり、日本一があることを探して強調し、愛着をもって戻ってきたりしている。そういうことを考えると、瀬戸もやるのが沢山あるのではないか。瀬戸にある日本一探し。例えば、日本一陶芸家が多いまち等、日本一探しを探せばある。美濃陶芸コンペがあるが、トップ取りをして、子どもたちがまちに自信がもてないのではないか。そういうところの宣伝になるようなイベント、お金をもらうための仕掛けを派手な動きをやってもいい。

〈横井座長〉

座長：決してお金を取りに行くためのものではない。

〈成田委員〉

委員：まちが目立つためにも足元を固める必要があると思う。個人の自宅でも綺麗にしている人は、綺麗にしているし、汚い人は何もやらない。市民も協力してやっていく必要があり、まちの見た目を考えなければいけない。市長の話をお伺ったが、市民みんなで市民の意識づくりをしていかないといけない。

〈山中委員〉

委員：女性が働き続けられるまちづくりのためには、瀬戸は昔、自宅で勤務できる仕事がたくさんあった。在宅で勤務できるまちづくり、各会社が在宅でもできることを。ネット社会だから、情報のリスクは怖いですが、できれば、若く高いスキルを持った女性がたくさん集まる。新聞で読んだが、東京から仕事をもらって地方で働くこともある。基本的な所をきちんとまちづくりの中で考えるといいのではないか。アミューズメント施設ということもあるが、瀬戸の批判になったら申し訳ないが、道の駅をあんな奥につくってもしょうがない。市民は、旧市街に地元の愛着があり、そこへ対策を打つことが必要。女性が来たいな、住みたいなというまちにしていくべき。昔は分業制で瀬戸には仕事が沢山あった。中小企業でも在宅勤務を考えなくてはならない時代がきた。

〈横井座長〉

座長：瀬戸市にはリソースがたくさんあり魅力的だが、共有できていないということ。女性の支援ということを手当してくれという話でなくて、自分たちの家庭・地域、企業の中での託児仕組みをつくるなど調整し、予算をつけるのは難しい課題であるので、そういう視点でも考え

てもらえればと思う。

〈熊谷委員〉

委員：瀬戸には産業が多くあるため、キャリア教育もやっているが、もっと様々な企業が子ども達に伝える機会を増やすことが重要。瀬戸ならではの、陶器のまちであるということを考えると、何ができるのかということ。瀬戸の子どもは全てできるということ、総合学習のような時間に、地場産業である絵付け師が子どもに教える。教えることで、絵付け師自体も変わるし、肌で体験し、作れば売っていた時代なので、経営する感覚があまりなく、こうすれば売れるという意識などなく、逆転の発想で魅力につながるの、そういう機会を企業と子どもが連携して交流する機会をつくるといい。少しでも将来瀬戸で働こう、こうなろうというキッカケができるのでは。職場体験で子どもたちに伝えることの重要性、体験によって子どもたちも、きちんと働くということがわかる。

〈横井座長〉

座長：キャリア教育、職場体験もやっており、継続していければいいと思う。

〈丹羽委員〉

委員：瀬戸ものの産業が重要ではあるが、残念なことにイメージが悪い。8/4の日経に、夫婦喧嘩は安物のせとものを壊すことに限ると書いてあった。せとものは安物というイメージ。瀬戸のイメージを、ブランディングで変えていく必要がある。瀬戸の産業は昔多くの人が勤務して大量生産であったが、今はいいものとなってきた。昔のイメージが強すぎ、衰退するものだと思われる方も多いが、やり方で、多くの人を惹きつける魅力あるものである。再度ブランディングをしていくべき。

〈牧委員〉

委員：宮内委員は大阪出身ということだが、大阪の方から見てせとものは安物というイメージがあるか？

〈宮内委員〉

委員：せとものが安物というイメージは正直無い。瀬戸焼のブランディングが重要であると思う。高級化というお話をされたが、研究で焼き物を調べる機会があり、ホームページ等をみたが、若者が買いたいと思うものが1つも無かった。若者向けのブランディング化という方が、高級化路線という方向でいくよりも馴染むものではないか。瀬戸市自体のブランドを上げるときに瀬戸焼は欠かせない。瀬戸焼き自体のブランディングだけでなく、瀬戸市のまちのブランディング化も必要。例えば、給食で月に1回は瀬戸焼を使うなど。瀬戸市民が使ってもいないものを他の人が使っているわけでもない、馴染ませていくのが大事だと思うし、まちづくり自体にもつながっていく。

〈横井座長〉

座長：安物と思っているのは、瀬戸市民ではないかと思う。

〈宮内委員〉

委員：消費者調査をかけたほうがいいかと思う。

〈牧委員〉

委員：これまで消費者調査していないのではないかと。私は東京へ行くと、瀬戸物は安物だと思っている人は一人もいないし、焼き物＝せとものだと思っている。よその人は有田の瀬戸物、九谷の瀬戸物と言うし、外の人の感覚では瀬戸物祭に行けば何が置いてあっても瀬戸物という。瀬戸物は、瀬戸でつくったものなのか、焼き物の総称なのか。瀬戸の人は瀬戸で作ったものだけが瀬戸物と思っている。

〈宮内委員〉

委員：ブランディングで、ジョンソン&ジョンソンが出しているバンドエイドが救急絆創膏の名

称となり、最もダメなブランドになっている。それが瀬戸焼にもおきている。きちんと直していかなければいけない。

〈中桐委員〉

委員： 瀬戸焼のブランド化について、実は10年ほど前に市場調査をした上で、瀬戸織部というブランドを立ち上げた。イベントは続いているが、瀬戸そのものの活性化までは繋がっていないのではないのか。瀬戸のアイデンティティといえど何にも勝るのは歴史や文化ではないか。老舗、六古窯に始まる歴史なのではないか。瀬戸の産業は瀬戸焼だと言いきる自信はないが、老舗であることは引き継いでいきたい。

仕事ということで、1点目、豊田市や名古屋市によい職場があるということで、瀬戸市のメリットを考えると、名鉄瀬戸線につける。栄町から30分で行きも帰りも座って通勤できるというメリット、県庁周辺の東大手という駅の官庁街にも近いというメリット、既にあるインフラのメリットをいかに栄周辺の優良企業に理解いただくかが必要。地価が安い、自然豊か、居住環境が比較的備わっている、全国的に栄という繁華街に比較的近いという地の利。今ある企業に、名鉄瀬戸線を生活に根差したインフラでPRできるイベントができないか。市内でいうと、企業団地に色々な優良企業があるので、企業で働く方が、新しく家庭を持つ時にどこを選択するのか。瀬戸市を選ぶ優遇制度や支援が必要。瀬戸市役所においても瀬戸出身で採用されても市外へ出てしまうという実情があり、重点的に優遇していくことが必要。環境に力を入れている市役所では、自動車通勤より、自転車通勤の人に多く住宅手当を出している市町村もある。

〈横井座長〉

座長： 子育ての件は、次の会議の議題でもあるが、企業の立場として、前回の会議でもあったCSRがある。それぞれの企業がどんなことをしているのか、瀬戸市が企業の情報をまとめる必要がある。人材について、どのようなことができているのか等をまとめたCSRレポートを、若者や女性にPRしていくことが必要。その中で、例えばうちは仕事をしながら子育てができる等、ぜひ事業の中で取り組んで開示していくと、競争力になり広がっていくのではないか。

〈山田委員〉

委員： 地域の皆さんの強い思いを議論されていて、瀬戸市に愛着をもっていらっしゃると感じる。元々、政府が枠組みを決めている中で、年間6,000万位の予算規模で、4年間で何らかの成果をあげる必要がある。全体を踏まえ、働く場を増やすために向こう4年間の中で、何らかの成果を出すには、せいぜい2~3つ程度の事業しかできないのではないか。その2~3つの事業は何にするのか。1つは窯業での働く場を増やすために何をするか、もう1つは将来働く場をつくるために何をすべきかを選択すると、1つか2つ位が落ち着く先かと思う。外から見ていて思うのは、瀬戸線の話があったが、名鉄を栄まででなく金山まで通すべきである。金山まで通れば中部国際空港まで特急1本。5~10年単位の将来の話になるが、名古屋学院大学や南山大学が瀬戸市から出ていく。あの立派な建物スペースをどうするのか。ハードはあるので、ソフト的なアイデアだけで産業になり3~4年で雇用が創出できるのではないか。

〈横井座長〉

座長： 近隣市町には働く場があって、有効求人倍率が2を超えているところがある。働く場があっても働きに来ない、仕事があっても、そこが魅力的な会社でないとそこで働きたくないという。瀬戸は名古屋市、尾張旭市、豊田市に人口流出しているという視点でもお考えいただきたい。

〈水野和郎委員〉

委員： 日本版CCRC等を政府は着々と進めている。乗り遅れていいのか。観光も出ているが、我々だけでできるのか。近隣市町村ではマーケティング等も着々と既に研究している。

〈横井座長〉

座長： おっしゃる通り、事例はたくさん出ている。その中で瀬戸はどう解釈して読み解いていくか。

〈水野和郎委員〉

委員： 名鉄は名古屋駅に繋げるべきだと私は思う。豊田市から名古屋駅まで40分。大府市は人口が増えている。なぜかという、名古屋駅から17分。新幹線もある。長期の視点で議論いただきたい。特急を走らせることも可能。

〈横井座長〉

座長： 魅力あるまちを作るためにも、総合的に高付加価値の魅力ある瀬戸、住んでみたい、働きたいということから議論して提案して頂きたい。

〈成田委員〉

委員： 魅力というのは窯業で儲かるまちだが……。働く人は中小企業で集めにくい。良い人に来てほしいけれど、なかなか中小には集まりにくい。

〈横井座長〉

座長： CSRの視点で、今の若者が求めているのは職場の働く環境で、企業が社会的責任をどう果たしているのか、社員に対しても地域に対してもという段階に入っている。総合的な魅力を企業と地域でつくっていくのも手である。

〈成田委員〉

委員： 働く場としては、幅広い業種が必要。窯業は、立派な大学からは来てもらえないかもしれないが、年寄りもできる。窯業はマイナーに考えがちであるが、窯業は色々な形を変えている。窯業試験場は瀬戸しかない。

〈横井座長〉

座長： CCRC ということで、ご年配の方でもできる仕事として窯業は期待できるのではないか。

〈寺田委員〉

委員： 皆、着ているものが汚れる窯業の仕事を本当にやりたいのかと思う。今治のタオルが、ローカルブランドとして上手くいっている。ローカルブランドの今治が、今治に住みたいに結びついているのか疑問に思う。観光客は直に繋がると思うが……。瀬戸の町の中で、瀬戸焼等の一般的な産業は利益率の低い和食器等で、働く人を募集するほど集められるのかという疑問がある。資料には、基盤産業の770人分の雇用を創出をすると人口1万人増やすことができるということだが、その770人分を窯業で雇用を創出できるまで、ブランディングできるのか、ハードルが高いというのが正直なところ。

〈横井座長〉

座長： 瀬戸はケタ違いになっている。個人でやること、企業努力、町全体の戦略を整理しないと難しい。

〈丹羽委員〉

委員： 寺田さんの話でそういう仕事をしたい人がいるかということであれば、瀬戸の職業訓練校については、全国から集まり、一昨年は2倍の倍率であった。去年は1.5倍。窯業をやりたくて来ている人は多い。瀬戸藤四郎の催し物でも、全国から82名の方がいらっしゃる。特に多いのが20代30代女性で、やりたいという方は多い。では、雇用できるかということ、現実は無。焼き物を作りたいという人が多く、気持ちが強い。大量生産ではなく、こじんまりしたもので少しずつ増えていって形になっていくのが良いのではないかと。一朝一夕でない。

〈寺田委員〉

委員： 安心して働くという観点では、窯業をやりたいという人は多いが、それは趣味程度。生活するための仕事として（作家として）残っていく人はかなり少ない。焼き物を、住んでもらうツールとするか、観光客誘致とするのか、その観点が必要。その延長で、実は若い人でも学

べる環境がいくらでもあり、市の市営住宅を若者に開放するということもある。陶芸村を作
ってということや、その観点でいうと、魅力的な働く場をブランディングと結び付けるのは
難しいかなと思う。

〈横井座長〉

座長：一過性のものであってはいけない。最終的にそこに定着して働いていただきたいという視
点が必要。個人として、企業の努力として頑張ってもらうしかないが、環境の整備をするのは
大切。瀬戸にはリソースがある。窯業だけでなく、観光、自然、教育等。

〈岡崎委員〉

委員：魅力あるということであるが、誰がみてということが抜けていると思う。瀬戸市内に住ん
でいる人たちが、誇りを持って定住してもらう、そのためのものか、外に向けてなのか、人口
減少社会において、外に魅力ある瀬戸をアピールするのか、それを整理して進めていかない
といけない。

〈横井座長〉

座長：人口減少問題は女性の方が少子化につながるもので、若い女性がそこに留まって働けるかど
うかが、どこの市町も大きな課題である。最も大きなターゲットは女性の問題。

〈成田委員〉

委員：瀬戸駅周辺は空き家も多い。地域の空き家を何とか活用できないか。お医者さん、スーパ
ーもあり、商店街もある。土地 20 坪で坪 25 万では売れるわけない。20 坪くらいのやめられた
電気屋さんが上物を壊すと 400 万円かかる。だから皆壊しもできないし。瀬戸駅近辺の人は
いい所に家を建てて引っ越しできない。人が増えるような優遇策を考えないといけないと思
う。

〈牧委員〉

委員：焼き物はつくるだけじゃない。つくるだけにこだわってしまうと、急に雇用を増やしたりは
できない。違うところで焼き物のメリットを発信できるのではないか。商店街をアウトレッ
トにする話が前回出た。イメージ的には色々考えられ、焼き物が趣味の人をよんできて、趣
味の人からお金を取る等発想が出てくる。つくるだけの雇用だけじゃない雇用が考えられる
のではないか。

〈宮内委員〉

委員：農業の 6 次産業化がアイデアにあるが、農業の 6 次産業化を進めることができれば、プロセ
スで女性の活用が見込まれる。仕事の部分と若い世代の部分を繋げられるというプロジェク
トにした方がよい。6 次産業化が目玉になるのではないか。
以前、香川県のこまちの家というところに宿泊した。空き家を今風に建替えて、観光の宿泊
先としている。それを更に移住とからめる。移住したいという人がきれいにリフォームされ
た空き家に住み、もし気に入れば、そのまま購入してもらおうという空き家対策システムを考
えていく。観光にも移住にも空き家対策にも繋がる。

〈丹羽委員〉

委員：空き家対策は重要である。瀬戸駅の周りは空き家が多い。その土地ならではの日常の会話
が見られるような、観光ができるとよい。瀬戸市のことを考えれば、瀬戸市を 1000 年続くもの、
時代に即したもの、それぞれの柱を常時考えバランスよくやっていければいい。

〈水野和郎委員〉

委員：農業の 6 次産業化については、2 年前から瀬戸信用金でファンドを用意している。瀬戸信用
金庫と名古屋銀行、政策金融公庫でやっている。2 年前からやっているのでも早く活用したい
がハードルが高い。今最も近いのは、トマトジュースをつくっている事例。先日バンコクへ
行ったが、輸出するとなると 1 本千円と高くなってしまふ。

〈横井座長〉

座 長： そろそろ時間であるため、会議をしめさせていただきます。その前に事務局から何かあるか。

〈事務局〉

事務局： 本日の議論から、次回に向けて少し方式を変えないといけないかを感じる。第1回の会議で、より多くのアイデアをいただきたいと言ったが、そのアイデアは、何をターゲットにするのか、結論は何を求めるべきなのかのについて絞り込むことが必要であるのではないか。そこで、一旦、瀬戸市が、地方創生の国のビジョンに沿った基本的考え方を皆さんに示し、各々の考えにぶら下がる事業について、委員の皆さんからのアイデアを求めたり、アイデアで出された事業の善し悪し、こんな考え方があるじゃないかという形で議論を進めていただいたほうがやり易いということなのか。これまで2回の議論をしていただいたが、どちらがやりやすいか事務局にご指示いただきたい。

〈横井座長〉

座 長： 柱を事務局の方でまとめていただいたほうがスムーズに行くのではないかと考えるが、皆さまそれでよろしいか。

異議がないようなので、次回に向けて事務局で案を作成いただきたい。

〈事務局〉

事務局： 次回に向けての整理として、今日の働く場という視点で、焼き物の活用論としてのアイデア、もう一方で新たな産業創出の必要性としてのアイデアに2分される。それらを、瀬戸市はどういう形でご提示していくのかという考え方として、提示させていただくということでもよろしいか。

〈委員全員〉

了承との声

〈事務局〉

事務局： では、次回に向けての資料作成を進めさせていただきます。

〈横井座長〉

座 長： ご議論ありがとうございました。

事務局から、次回は9/29（火）10時～、10/30（金）10時～の開催を連絡。

参考資料として、愛知県の人口ビジョンと地方版総合戦略のパブリックコメント実施中の資料を提供。

第1回目の議事録を確認いただき、訂正等指示があれば、事務局までに連絡をお願いします。

以上